

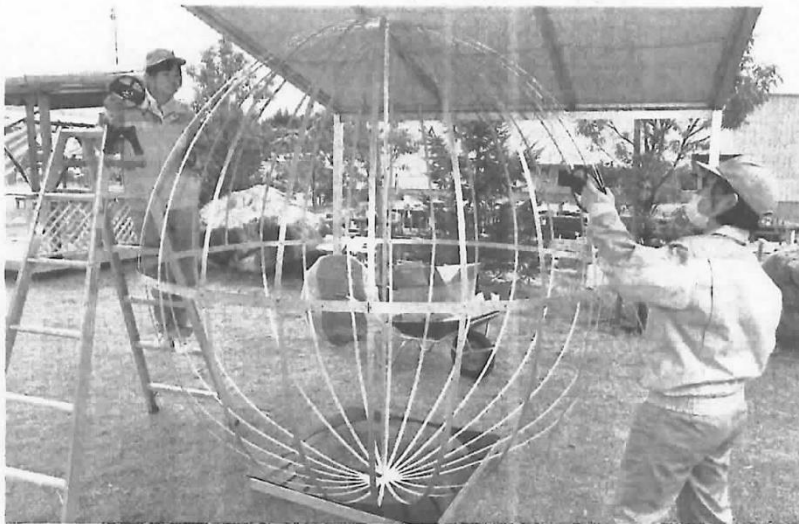
(第三種郵便物認可)

長野日報

駒工生が球体の 「体験型」イルミ

ルビーの里で今年も製作

駒ヶ根市福岡にある金属加工業タカノ（本社宮田村）のエクステリア工場敷地内で、駒ヶ根工業高校（駒ヶ根市）電気科の3年生がイルミネーション作品を作っている。同社が毎年依頼している恒例の取り組み。今年は球体型のデザインで、今月下旬の点灯を目指して準備を進めている。（布袋宏之）



イルミネーション作りに励む駒ヶ根工業高校電気科の3年生

場所は工場敷地内に整備された「ルビーの里」で、同社が製造するオーニング（日よけ）の常設展示場を兼ねた憩いの場。夜間も開放されていて、冬期は来場者向けにイルミネーションを設置している。地元高校生にも参加してもらおうと、2014年から毎年製作をお願いしている。課題研究のイルミネーション製作班に所属する電気科3年の森華鈴さん、増澤彩音さん、坂恰衣嘉さん（いずれも17）の3人が担当。夏休み前から準備を進めてきた。作品はアルミ製の骨組みで、直径2・1メートルの球体。約7200球の発光ダイオード（LED）を飾り付ける予定だ。

今回の作品は中に入ったりできる「体験型のイルミネーション」といい、班長を務める森さんは「見るだけではなく、体験できるイルミネーションに仕上がると思うので期待して待っていてほしい」と話している。